

みんなのあしたを考える。
みんなであしたを考える。

ふじひろしとカンがえる

藤

浩

志

考

3・11から6カ月が経ちます。
季節は移り、私たちを取りまく状況も刻々と変化しています。
日々移り変わる被災地へ出かけ、瓦礫の山がどのような街並みだったのか。
あの日を境に人々の居住まいがどのように形を変えたのかに思いを馳せたいと思います。
いろいろな人の話を聴き、その気持ちに心を寄せたいと思います。
そして、あの時から“今”、“今”から未来へ、私たちがこの地で何ができるのか考えます。
まちとひとといろんなものを面白く楽しくいきいきと繋ぐ美術家・藤浩志とともに、
目を凝らし、耳を澄まして、カンがえるワークショップです。



ホスト・アーティスト

藤 浩志
ふじ ひろし
美術家

1960年 鹿児島生まれ。京都市立芸術大学在学中演劇活動に没頭した後、地域社会を舞台とした表現活動を志向し、京都情報社を設立。京都市内中心市街地や鴨川などを使った「京都アートネットワーク」の企画以来、全国各地のアートプロジェクトの現場で「対話と地域実験」を重ねる。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校勤務。土地再開発業者・都市計画事務所勤務を経て92年藤浩志企画制作室を設立。地域資源・適正技術・協力関係を活かした活動の連鎖を促すシステム型の美術表現を志向する。主に日本国内とアジア・環太平洋を活動領域とし、美術類のデモンストレーションと素描の制作を実践する。主な作品として、取り壊された家の柱からつくられた「101匹のヤセ犬の散歩」。一ヶ月分の給料からはじまった「お米のカエル物語」。家庭廃材を利用した地域活動をつくる「Vinyl Plastics Connection」。不要となったおもちゃ類を利用して子どもの活動をつくる「Kaekko」。防災プログラムをつくる「イザカエルキャラバン!」。架空のキーパーソンをつくる「藤島八十郎をつくる」等。<http://geco.jp>

ワークショップ



日時 |
平成23年9月2日(金)
-3日(土)

内容 |
① 震災被災地(沿岸部)に行ってみる。
② 感じ考えたことをみんなで話し合う。

9月2日(金) 9時えずこホール集合
→被災地(気仙沼)
→19時ワークショップ
※19時からのワークショップのみの参加も可能です。

9月3日(土) 9時えずこホール集合
→被災地(七ヶ浜・塩釜)
→17時解散

場所 |
えずこホール・会議室
〒989-1267 宮城県柴田郡大河原町字小島1-1

参加費 | 300円 ボランティア保険代(※未加入者のみ)

主催 | えずこ芸術のまち創造実行委員会・えずこホール(仙南芸術文化センター)
東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)
※本事業はArt Support Tohoku-Tokyo(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)です。